

会議録（概要版）

会議の名称	第7回 学校規模学校配置適正化検討委員会
開催日時	平成23年4月26日（火） 13時30分～16時32分
開催場所	小川総合支所 大会議室
出席者	<p>【出席委員】</p> <p>水本徳明 野村武勝 中村強 山口良元 中川稔          小林義治 矢口忠衛 星野広幸 福田智彦 西村浩一          小仁所浩 立原幸子 邊見亜津子 中島浄 飯島利武          沼田マサ 竹内昌信</p> <p>【欠席委員】</p> <p>鈴木美樹</p> <p>【教育委員】</p> <p>澤畠照子 中村三喜 沼田新 鶴町庄二 本田仁子          沼田和美</p> <p>【事務局】</p> <p>小松修也 戸塚俊宏 成井修也 海老澤光志 久保田一江          佐々木浩 菅谷清美</p>
協議案件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校適正化の基本方針及び市民意向調査アンケートの内容について</li> <li>・ その他</li> </ul>
会議資料	別紙 ( 会議次第、 他 )
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開    (傍聴者 5 人)



## 協 議 の 内 容

### 【協 議】

(1) 学校適正化の基本方針及び市民意向調査アンケートの内容について

委員長 前回、広く市民から意見を伺うことが必要だろうということでアンケートをするということになった。対象者は、市民、保護者、学校の先生。委員の皆さんからどういった質問をしたほうがいいのかということで、ご意見を事務局に出していただいた。委員長として皆さんのご意見を踏まえて案として作らせていただいた。今日は、この案について委員の皆さんにご検討いただいて、アンケートが実施できるようになるところまで決めていきたいと思う。

(市民用、保護者用、教員用のアンケート(案)について、グループで検討。)

委員 市民アンケートについて報告。  
大きな問題はないが、選択肢が少し多すぎる。

委員 保護者アンケートについて報告。  
問の前にタイトルを決めたらどうか。例：問〇 ～を聞いている質問です。

複式学級を聞いている問いについては意見が分かれた。今年は現実的に複式学級がない中で聞く意味があるのか、という意見と、あまり神経質にとらわれず、あってもいいのではないかという意見。

総合的にボリュームが多い。

委員 教員アンケートについて報告。  
保護者にとっては項目が多いが、教員にはこのくらいあっても良い。

委員 教員の考え方も学校差があって面白い結果が出るだろう。

委員 問かけをする時に、ただの問かけでは、このままでいいという意見が半数以上占めるのではないかという気がする。県・国がこういう方向で進めているということもきちんと添えて、この委員会でもここまで来ているということを少しやらないと幅広い答えになって、よけい集約できなくなるのではないかと心配。

委員長 一通りご意見いただいた。その他の質問の問Aの聞き方。アンケートの結果は私たちがこれから考えていくための材料になると思うが、問Aのような聞き方をすればまず私たちの方針をある程度はつきりしておく必要がある。それぞれのグループで、このことは何か意見はあったか。

委員 この件については検討していない。

委員 この委員会はこの考えを持っているが、そういうことに対してはどうでしょうか。という聞き方をしたほうがいいのではないかと思う。人数の考え方の基準の考え方が分からない。

委員 県の指針に沿うことという、県ではこうなっているとあれば先入観ができる。数字的なものまで出されてしまって、県の方針まで載っていると、これに沿って丸を付けてしまう。あまり意味がなくなってしまう不安がある。

委員長 誘導のようになってしまったり、狭めてしまうという意見と、一方で何らかの考えを示さないと答える時に一般的な形で答えてしまうと、この委員会にとっての役に立つデータ、結果になるだろうかという、心配と両方あるのが難しいところだと思う。

委員長 この委員会が、例えば3学級以上が望ましいとなったとなると、3学級にするためにどうするのか。統合した時に通学の面はどうするのか、ということになって、それについてはスクールバスのことを考えているというようなことも併せて考えを示していかないと、答えようがない。そういう意味ではこの委員会として、何学級くらいが適正だと思っていて、そのためにはこういう方法で適正規模化していくのがいいと思っている。そのあとの手当てについてはこういうことを必要だと思っているという、基本方針の素案みたいなものを示しながら意見を聞いていかなければいけないが、そういう形でアンケートを実施するのか、それともとりあえず聞いたうえで、それを基にして基本方針を考えるというような立場で進めるのか判断していただかないと、アンケートを進められないと思う。

心配なのは今の案のような形でアンケートをとった場合に、今のままでいいのではないかという意見が多かったら、この委員会としてそれに沿わなければいけないのではないか、という意味で縛られる。逆もある。アンケートをどう考えるかだが、出た結果をどう分析してどう検討するかということだが、私としてはどちらも同じようなことがおきるのかと思うが。

委員長 委員長としての提案だが、今回のアンケートでは、問Aのようなものは含めないで、それぞれの立場の方の意見を伺うということにする。もちろん、そのアンケートは非常に大事な材料なので、結果を尊重しつつ一方で他の材料も踏まえて方針を決めていくというように進めたらどうかと思うが、いかがか。県の方針や国の標準というようなことも、示すのか示さないのか。

委員 このアンケートには、前文がつくと思う。私たちの委員会は国・県の指針ということを踏まえて行われているものだと思っているので、少し表に出したほうがいいと思う。

委員 県の方針に従うのではなく、入れるとするなら県の方針はこうだというように入れた方がいい。

委員長 何らかの形で県の指針は示したほうがいいということだが、いかがか。

委員 前文に入れるよりは、最後に入れたほうがいい。

委員長 問 8 で小規模になってきたときにどういう対策を取るべきだと思いませんかと規模を聞いて、問 9 でどういう対策を取りますかと言うのがある訳だが、例えば統合すると言う回答をされた時に、その上でどのような対策が必要ですかというのを尋ねるとい意見だが、いかがか。

委員 そこまでアンケートに答える人が理由をしっかりと考えられるか疑問を感じる。アンケート項目が多いし、答えること自体にけっこう疲れるだろうと考えると、余白で理由をお書き下さいという程度でいいのではないか。私たち検討委員会も何回も繰り返してやっているが、実際方向はまだそれぞれの頭の中にあるかもしれないけれど、決まらない。

委員長 市民アンケートでいうと問の 10、13 を削って、アンケートの最後に学校の適正規模、配置についての考えや要望があればお書き下さいと、自由に書ける欄をある程度広く作るということもあるが、いかがか。

(いいのではないですか、の声)

委員長 それぞれの項目は、統合できるものは統合しながら、ということで、この修正をどうするかだが、私のほうで修正させていただいて、私と事務局にらせていただいてよろしいか。

(はい、の声)

委員長 一任いただいたということで、中身については事務局と相談して変えていきたいと思う。依頼文の内容的に触れておくべきことだが、小美玉市の学校の子どもたちの数が減ってきているということは言わなければいけない。その中で子どもたちの学習環境をもっとも良く維持するために検討をしている。そのために市民・保護者・先生に意見を伺うのだということを書けばいいのかと思っているが、何か他に入れておいたほうがいいというのはあるか。

委員 教育委員会としては国・県からこういう方向でと指示があって委員会を組織したのか。全くそういうことはなく自主的に合併を機にこういうことを議論しようということになったのか、その辺のことを伺いたい。

教育長 国や県からの指導、指示も一部に検討していく一つの要素ではあるが、それだからではない。子どもたちの数が減ってきていて、将来的に続く。そういった中で、子どもたちの教育環境を整えていかななくてはならない。そのような時に、施設面ばかりではなくて子どもたちの学びの環境の本当に適正な部分というのはどこにあるのか、それを議論していく必要があるだろう。市民の皆さんの意見を伺いながら、小美玉市のこれからの学校教育の在り方を検討していく必要があるだろう。

こういうことを伺うことによって、市民の皆さんが教育に関する意識を、地域でも学校支援ということを少し意識していただけるような場にもしていければという思いもある。これからの子どもたちの環境づくりをみんな考えていくきっかけ作りを、検討委員会を通して進めていければ幸いと考える。ご理解いただきたい。

委員 先ほどの話で違和感を覚えた。これから先子どもの数が減るのかと言われると、そんなに減らない統計だと思う。

委員長 あまり子どもが減るといえるのは言わなくてもいいのでは、ということか。

委員 少しは減るかもしれないが、統計上すごく減るわけではない。認識の違いか。

委員長 意見の中には将来予測をつけてはどうかと言う意見もあるが、その点はいかがか。

委員 少なくなっていくというのは認めるが、これから少なくなる、と言うのはどうなのかと思う。

委員長 減ってきたということは言うにしても、今後減ると言うことは言わない。減ってきた状況を受けて適正な学校の在り方、子どもたちの学習環境にとって望ましい在り方というのは、どういう規模でどういう在り方なのかということを私たちは検討する、ということを行う。

委員 質問を加えるとすれば、義務教育である以上同じ条件で子どもたちが学ぶ環境を作らせたい。一つの設問として自由記述で書くのは重いかなというところがあるが、このことはぜひ聞いていただきたい。

委員長 義務教育としての平等性というか、公平性みたいなものか。

委員 言い方が良く分からないが、できるだけ同じ条件の下で学ばせたいという気持ちがある。

委員長 義務教育としてできるだけ同じ条件にするということか。確かにそのことは入れるべきだと思う。

委員 教育長が答弁されて、決して県の指針だからやるのではないということだったが、県が指針を出している以上それに沿うべく努力をしなければいけないと私は思う。県の指針のように行かない場合も考えなくては行けない。

委員長 県の指針どおりにいかないとな市の財政負担が増えるのかどうか。私たちが答申したらそのとおりに教育委員会が動くのかどうかだが、二つ目の点について言うと、私たちは教育委員会に対してはこういう方針ですと答申するが、それを今度は教育委員会で検討いただくということであって、そのとおりに実現されるかどうかはその判断によってくると私は受け止めている。

次長 国・県で言っている適正規模に沿わない場合、支援を受けられるべきなのに適正ではないために受けられないとかのペナルティ的な制度はない。具体的な方法論が出てこないと比較対象にならないが、今の段階では一概に言えないことだと思う。

委員 教育委員会は教育についての財源のない執行機関だと思うが、その点はどういう考えなのか。教育委員会がいくら考えても裏付けがなければできない。その点について私はこの検討委員会でどういう結論が出るか分からないが、その結論が出たことを重んじてやってくれるならしっかりしてもらわなければならない。

教育長 教育委員会としては、この委員会で結論付けていただいたことを実現に向けて最大限努力をしていかなければならない。検討委員会からの答申結果というものについては、重きを置いて対処していかなければと考えている。実施すべく最大限の努力を教育委員会としてはしなければならぬという思いでいる。

委員長 財政のことについては、一概には言えないので、ここでは教育の問題としてどういう学校の在り方が望ましいかということを考えていただく。

アンケートの中身については以上のような扱いをさせていただく。アンケートの対象者と進め方について検討をいただきたい。まず保護者についてはいかがか。悉皆にすべきか、一定の学年の保護者にだけ答えていただくとしたほうがいいのか、ご意見を伺いたい。

委員 今の幼稚園児、保育園児の保護者も興味があると思うので、考えに入れて欲しい。

次長 こういう類の適正化に対する取り組みが進んでいるところの実例を見ると、全部ではないが、学年を限定しての保護者を対象にしているケースもある。保護者を全部対象にしているアンケートもないことはない。

委員長 保護者の場合、例えば1年生となると、まだ学校に入ったばかりで応えるのが難しいところがあると思う。例えば、小学校は半分で2,4,6年生、中学校は2年生、といことではいかがか。異論がなければそういう形にさせていただきたい。

委員 集計することを考えると、数の少ないほうがやりやすい。少なくとも保護者は全体を対象としたほうが一番いいのではないかと思う。

委員長 保護者は全員で、市民については1,000でよろしいか。

委員 市民についても関心度の差があると思う。ランダムに選ぶにしても、例えば玉里地区、小川地区、美野里地区といった場合の人口の中の2割をランダムに選ぶような形で、戸数に併せて何割の方を選んだという選び方のほうが平等的な選び方になる。

委員長 地区の人口に比例配分して、1,000人を分けて、それぞれの数を無作為に抽出するというところでよろしいか。市民用のアンケートの中に幼稚園・

保育園の子どもがいるかどうかの設問を入れるか、というやり方もあるかもしれない。どのくらいの人数を拾えるかは分からないが、そのような扱いはいかがか。

委員長 今小中学校にいる方の経験とか実感が基本だと思う。幼稚園・保育所の保護者については市民用の中で幼稚園・保育所に行っている子どもがいるか確認する。その方たちの意見がある特徴を持っているかどうかは分析する時に区別すれば分かることなので、そういう扱いをさせていただいてよろしいか。

私と事務局でアンケートを作り実施させていただいてよろしいか。今後のスケジュールについておおよその見通しを説明してください。

次長 アンケートの調査対象総数が 5,000 近い総数になるかと思う。5月中旬くらいに対象者に依頼させていただき、7月いっぱいくらいは集計作業にかかってしまう。

委員長 アンケートの結果が出てくるまでに2ヶ月くらいある。その間、既に進めている自治体の意見を聞くとか、この委員会としての方針を考えていくとかが課題になる。この委員会としての考えを固めていく作業を進める必要があるので、この間情報収集をしたり、この検討委員会としての方針をめぐって議論したりということをする時期なのかと思う。

委員長 アンケート結果が出る前に2回ないし3回検討委員会としての方針を決めていく際の手がかりの情報を得たり、方針自体を検討したりということのために会議を開かせていただく。



